

令和 8 年 第 6 回
教育委員会定例会教育長報告

令和8年6月19日（金）

- | | | |
|---|--|-----|
| 1 | 令和8年第2回市議会定例会一般質問対応状況について | 資料1 |
| 2 | 校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について | 資料2 |
| 3 | 令和8年度武蔵村山市立学校学校評価（計画）について | 資料3 |
| 4 | ～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～第49回武蔵村山市
歩け歩け大会の開催結果について | 資料4 |
| 5 | 野山北公園プールの休止について | 資料5 |
| 6 | その他 | |

令和 8 年第 2 回市議会定例会一般質問対応状況について

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
1 前 田 議 員 (公明党)	大南公園の 活用と施設 整備につい て	駐車場の整備及び 増設について。	大南公園、大南公園野球場及び庭球場を利用する方の駐車スペースにつきましては、野球場南側の敷地の一部を利用させていただいておりますが、現在、新たに駐車場の整備を行う計画はございません。
2 土 田 議 員 (新政会)	総合運動公園について	故障している時計、 雑草に覆われている ベンチや健康器具、老 朽化した案内掲示板 など、利用者や地域住 民から改善を求める 声を聞く。修繕計画や 今後の対応について 伺う。	総合体育館及び体育施設の施設及び物品の維持、保全等につきましては、協定に基づき、一義的には指定管理者において実施することとなり、その修繕については、1 件につき 50 万円以上のものは市が、50 万円未満のものは指定管理者が実施することとなります。 御質問の屋外時計につきましては、現在、基盤の故障により止まっている状況が続いており、指定管理者と調整の上、他の修繕箇所と合わせて優先順位を付けながら、できる限り速やかに対応してまいりたいと考えております。 また、総合体育館周辺の除草作業につきましては、6 月から 12 月にかけて年 6 回を予定しており、御指摘のベンチや健康器具周辺についても、過日、除草作業を実施したところでございます。 なお、破損している案内看板につきましては、現在、張り替え作業の日程調整等を進めているところであると伺っております。 今後も、指定管理者と連携して施設等の維持管理に努めてまいります。
3 鈴 木 議 員 (市民の力)	武蔵村山市 の文化・芸術 について	①文化・芸術支援の 現状と課題について 伺う。	本市の文化・芸術支援の現状につきましては、第三次教育振興基本計画及び第六次生涯学習推進計画に基づき、毎年度、市民会館事業や公民館事業を実施し、市民文化祭や生涯学習フェスティバル、各種講座を開催するとともに、文化協会、音楽文化振興協会及び郷土芸能連絡協議会に対し補助金を交付するなどしております。

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
3 鈴 木 議 員 (市民のた)	武蔵村山市 の文化・芸術 について	①文化・芸術支援の 現状と課題について 伺う。	課題といたしましては、各種文化団体等の会員の高齢化に伴う活動の休止や縮小傾向、文化・芸術活動の担い手不足などが挙げられます。
		②条例制定につい て市の考えを伺う。	文化・芸術に関する条例の制定につきましては、現時点でその予定はございませんが、引き続き、諸計画に基づいて文化・芸術の振興に努めてまいりたいと考えております。
		③文化・芸術のまち づくりについて市の 考えを伺う。	文化・芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する上で重要なものであると認識しております。 このため、本市といたしましては、文化芸術基本法の趣旨に沿って、文化・芸術活動を行う方の自主性を十分に尊重するとともに、誰もが文化・芸術を鑑賞、参加又は創造することができるような環境の整備や地域の特色ある文化・芸術の発展に努めてまいりたいと考えております。
	野山北公園 プールにつ いて	①今年度プールの 利用は可能か。	野山北公園プールにつきましては、施設の老朽化による配管の不具合等により、安定的な施設運営が困難であることから、令和8年度は休止いたします。
		②調査結果につい て伺う。	当該プール全体の循環配管を対象として令和8年2月に実施した漏水調査及び劣化診断の結果、ポンプ室東側の点検口内の配管において、亀裂による漏水が発生しておりました。また、露出部の目視確認により、施設全体の経年劣化が著しく進行しており、埋設されている配管についても、露出部の配管と同様に劣化が進んでいると推測されるため、部分的な補修にとどまらず、循環配管系統全体の更新などを視野に入れた抜本的な対策が望まれるとの報告がなされております。

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
3 鈴 木 議 員 (市民の術)	野山北公園 プールにつ いて	③今後の方針につ いて伺う。	当該プールにつきましては、配管以 外の設備も、経年劣化が著しく進行し ているため、費用対効果など多角的な 観点から、施設の存廃を含めて今後の 対応方針を検討してまいりたいと考え ております。
4 須 藤 議 員 (公明党)	小・中学校に おける熱中 症対策につ いて	①学校内及び登下 校での熱中症対策を 伺う。	学校内における熱中症対策につきま しては、各教員の判断により、扇風機や 冷房機を適宜使用しているほか、暑さ 指数に応じた屋外活動の制限などが行 われております。 また、登下校時につきましては、日傘 やクールリング等冷却グッズなどの使 用を各学校の判断で認めている場合も ございます。
		②登下校用の保冷 剤の配布や冷蔵庫の 設置、行事の際の日よ けテントの整備が必 要と考えるが、見解を 伺う。	児童・生徒への登下校用の保冷剤の 配布につきましては、現在のところ考 えておりませんが、冷蔵庫の設置及び 日よけテントの整備につきましては、 各学校の判断により、必要に応じて対 応している状況でございます。
	中学校にお けるオンラ イン英会話 の導入につ いて	①本市の中学校に おける英語教育の現 状と課題	本市の中学校における英語教育の現 状につきましては、各学校にALTを 配置し、授業での指導だけではなく、学 校生活においても日常的に外国語に慣 れ親しむ機会を設けております。 課題につきましては、生徒一人一人 にきめ細かな指導を行うための指導体 制等を工夫することや、担当教員の指 導力の向上を図ることであると考えて おります。
		②導入についての 見解を伺う。	本市といたしましては、現在配置し ているALTの活用を充実させていき たいと考えているため、現時点では、オ ンライン英会話の導入は考えておりま せん。
5 木 村 議 員 (市民の術)	今年度学校 の水泳指導 について	気象庁の夏の時期 の予報で、今年の夏も 全国的に平年より気 温が高いという予想 が発表された。小・中 学校の水泳指導での 暑さ対策について伺 う。	小・中学校における水泳指導での暑 さ対策につきましては、プールサイド に水筒を持ち込んだり、簡易テントを 設置したりするなどの工夫を行ってお ります。 また、小学校の水泳指導につきまし ては、気温や水温の上昇により、熱中症 の危険性が高くなることが考えられる ことから、例年よりも開始時期を早め

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
5 木 村 議 員 (市民の街)	今年度学校の 水泳指導 について	気象庁の夏の時期 の予報で、今年の夏も 全国的に平年より気 温が高いという予想 が発表された。小・中 学校の水泳指導での 暑さ対策について伺 う。	て実施しております。なお、夏季休業期 間中の水泳指導につきましては、熱中 症の危険性が極めて高いため、全ての 小・中学校で実施をしておりません。
6 田 口 議 員 (新政会)	小学校のス ポーツ推進 について	近年、小学生の体力 低下がメディア等で 大きく取り上げられ ているが、本市の現状 と対策について伺う。	令和7年度全国体力・運動能力、運動 習慣等調査における本市の小学生の体 力の現状といたしましては、運動やス ポーツをすることが「好き」と回答した 児童の割合が東京都の平均を上回って いる一方で、敏捷性や跳躍力に課題が 見られました。 小学校における体力向上に向けた取 組といたしましては、授業や学校行事 において、長縄、鬼遊び、持久走等を計 画的に実施し、児童が楽しみながら継 続的に運動に親しむ機会の充実を図っ ております。
	自転車を運 転する方へ の啓発につ いて	小・中学校での啓発 状況について伺う。	小・中学校における自転車の乗り方 に関する啓発につきましては、道路交 通法の改正を踏まえ、交通安全教室、学 級指導等を通して指導を行っております。 具体的には、小学校においては、東大 和警察署と連携し、自転車安全教室や 交通講話を実施し、交通ルールや自転 車の正しい乗り方について指導してお ります。また、中学校においては、全校 朝会における校長講話や学級指導等 において、自転車安全利用五則、交通ル ールの遵守、ヘルメット着用等について 指導しております。 今後も、関係機関と連携し、交通安全 指導の充実を図ってまいります。
7 内野直樹 議 員 (日本共産党)	総合運動公 園運動場・総 合体育館の 改修を	①総合運動公園運 動場・総合体育館の故 障や老朽化による改 修必要箇所と費用総 額。	老朽化等により市が改修等を計画し ている箇所は、総合体育館内の防災設 備や空調設備、上水・中水加圧給水ユ ニットなどがあり、これらのほか、総合体 育館の外装やバスケットゴールなど、 今後改修等が必要と考えられる箇所も ございますが、実施設計を要するもの もあるため、現時点で費用の総額は把

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
7 内野直樹 議 員 (日本共産党)	総合運動公園運動場・総合体育館の改修を	①総合運動公園運動場・総合体育館の故障や老朽化による改修必要箇所と費用総額。	握しておりません。 なお、指定管理者に伺ったところ、故障している屋外時計2基及び破損している案内看板の修繕に係る見積金額は、合わせて約76万円とのことでございます。
		②屋外時計や体育館照明などは指定管理者任せではなく、市が早急に改修すべきでは。	総合体育館及び体育施設の施設等の修繕につきましては、指定管理者との協定に基づき、1件につき50万円以上のものは市が、50万円未満のものは指定管理者が実施することとなります。 このため、御質問の屋外時計や館内照明等の修繕は、見積金額を基に、当該区分に従って、市又は指定管理者がそれぞれ責任をもって対応するものと認識しており、今後も、指定管理者と連携して施設等の維持管理に努めてまいります。
8 小部山 議 員 (青陽会)	平和事業、平和教育について	本市小・中学校における平和教育について。	本市では、小・中学校における平和教育に関するカリキュラムや独自教材の作成は行っておりませんが、平和に関する学習につきましては、学習指導要領の内容に基づき、実施しております。 小学校の社会科においては、「我が国にかかわる第二次世界大戦について調べる学習」、「平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」等について学習しております。また、中学校の社会科においては、歴史的分野における「昭和初期から第二次世界大戦の終結まで」及び公民的分野における「日本国憲法の平和主義」等について学習しております。 さらに、校外学習や修学旅行において、歴史民俗資料館分館や広島平和記念資料館の見学を行っている学校もございます。 今後も学習指導要領に基づき、平和の大切さについて考える学習を実施してまいります。

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
9 石 黒 議 員 (公明党)	おむつ交換 台の設置状 況について	乳幼児連れの利用 者が安心して公共施 設を利用できるよう、 公民館や地区会館等 におけるおむつ交換 台の設置状況及び今 後の整備方針につい て伺う。	公民館、地区会館等におけるおむつ交換台の設置状況といたしましては、現在、公民館さいかち分館、残堀・伊奈平地区学習等供用施設及び中久保図書館の多目的トイレ内に設置されております。 今後の整備方針につきましては、現時点で未定となっておりますが、子育て世代が安心して各施設を利用できる環境整備の重要性は認識しているところでございます。 一方、おむつ交換台の設置に当たりましては、適当な設置スペースが必要となることから、今後、トイレ内の手すり等既存設備との干渉など構造的な問題も含めて課題を整理してまいりたいと考えております。

校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について

(単位：人)

	令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
校 長 選 考	4	1	4	1	3	3
教育管理職 A 選 考	1	1	0	0	2	0
教育管理職 B 選 考	5	1	2	1	3	0
教育管理職 C 選 考	1	0	0	0	0	0
主 任 教 諭 選 考	3 4	1 1	3 3	1 4	3 2	1 1

※ 令和 8 年 6 月 8 日時点

令和 8 年度
学校自己評価及び学校関係者評価計画表



令和 8 年 6 月 1 9 日
武蔵村山市教育委員会

— 目次 —

1 第一小学校 1

2 第二小学校 2

3 第三小学校 3

4 第八小学校 4

5 第九小学校 5

6 第十小学校 6

7 雷塚小学校 7

8 村山学園 8

9 大南学園第七小学校 9

10 大南学園第四中学校 10

11 第一中学校 11

12 第三中学校 12

13 第五中学校 13

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第一小学校 校長名:押本 純樹

【経営理念】「児童自らが学びに向かいながら、共に生きることに喜びを感じ、誰一人取り残さない学校を創造する」を実現させるために次の3点を柱とし、推進する。 (1) 児童の自ら学びに向かう力を育てる学校(自立) (3) 児童の思いや願いが実現できる学校(創造) (2) 児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校(共生)	評価		【学校運営協議会・会長】高 橋 勉 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年 7月 2日(木) 第2回 令和8年 8月28日(金) 第3回 令和9年 2月18日(木)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。 【学校経営方針3の(7)】	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。	・自分から進んで授業に取り組んでいる児童が80% ・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者が80%						
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。朝学習や家庭学習等を通して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。 【学校経営方針3の(1)(2)】	遊びを通して、みんなと関わる楽しさを知り、時にはあるけんかも一つの大事な経験として、相手を思う気持ちを養う。	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童が80% ・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者が80%						
		音楽集会の活動を通して、みんなと歌う楽しさを知り、互いの声を響かせ、豊かな情操を養う。	・音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っている児童が85% ・自分の子が音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っていると感じている保護者が85%						
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の確立し、心身共に健康な体をつくる。 【学校経営方針3の(5)】	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童が80% ・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者が80%						
		運動やスポーツへの興味・関心を広め、体力を高める活動の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
学習の充実 ま ち づ く り	様々な人たちと関わり合いながら、自ら行動する力を養う。 【学校経営方針3の(3)】	各学年で生活科や総合的な学習の時間を通して、まちづくり学習(ゼロカーボンチャレンジ校の活動含む)の取り組み、その成果を発信する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答が70%以上						
信頼される学校づくり	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。 【学校経営方針3の(4)】	5つの生活習慣(校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする)にこだわり、年間を通して定着を図る。	・5つの生活習慣が身に付いている児童が90%。 ・自分の子に5つの生活習慣が身に付いていると感じている保護者が80%						
	誰一人取り残さない学校を創る。 【学校経営方針3の(6)(8)】	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童が95% ・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている保護者が85%						

※ 到達度＝達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第二小学校 校長名:細田 真司

【経営理念】 「創造する力」「感謝の心」「責任感」を育む学校を目指し、そのために以下の点を掲げ、推進する。 (1)教育は未来を創る営みであることを理念とし、未来を豊かにできる資質・能力を育む。 (2)今を生きる子供たちが生き生きと過ごし、自己調整しながら成長できる力を育成する。 (3)「地域・保護者と共に歩む学校(コミュニティスクール)の良き伝統を引き継ぎ、地域・保護者・教職員・児童が連携し、Well-beingの状態を保つ。	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年4月16日(木) 第3回 令和8年9月8日(金) 第5回 令和9年1月29日(金)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	文部科学省サキドリ研究校であることをふまえ、基礎基本の定着を図るとともに、学びに向かう力の育成を高める。	児童一人一人が学びに向かう力を高めるために、校内研究や裁量の時間を設定し、個に応じた学習を進める。	「学習に楽しく取り組めた」児童の割合 80%、また「お子様は楽しく学習に取り組めている」保護者割合 80%						
		朝学と家庭学習を通して、基礎基本の反復となる学習に取り組む。(例 読み・書き・計算など)	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	自尊感情の育成と美しい志の醸成を図るため、「特別の教科 道徳」の授業の充実と、縦割り班活動など特別活動の時間の充実を図る。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫し、また「考え、議論する」道徳を展開しながら、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	「自分の考えや他者への思いを深めることができた」と答える児童の割合 85% 「考えを振り返ったり、これからのことを考えたりしている」と答える保護者の割合 85%						
		縦割り班活動やペア学年を中心に、異学年での交流を図る。委員会やクラブ活動、日々の係活動を中心に役割をもった活動に取り組む。	「自分から進んで取り組めた」児童 80%、 「意欲的に取り組んでいる」と答える保護者 80%						
健やかな体の育成	強い体を育むために、年間を通して体育の授業と業間運動の充実を図る。	長縄、短縄、鬼遊び、持久走など期間を設けて体力向上に取り組む。休み時間の外遊びなど、健康な体づくりにつながる時間を設定する。	「体を動かすことが楽しい」と答える児童の割合 85%、「子供が体を動かすことが好きになっている」と答える保護者の割合 80%						
		体育授業での個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上						
まちづくり学習の充実	まちづくり学習に取り組むことで地域の愛着を深め、その成果を学校内外に発信する。	みかん農園、村山うどんの会、村山大島紬、モノレール、御囃子練習など、地域から講師を募り、地域に根差したまちづくり学習を行う。	【全校共通】「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を 80%						
		全校集会において、まちづくり学習で学習したことを発表する。	「地域が好き」また「街づくり学習から学んだことを講師や仲間の前で発表できた」と答える児童、保護者ともに 80%						
学校裁量	学校での取り組みを保護者・地域の方々に発信する。二小のやくそくを遵守し、規律ある学校生活を営む。	保護者・地域に必要と思われる情報を、SNSを通して発信する。	「地域行事について興味関心をもった」と答える児童 80% 「学校からの情報発信に満足している」と答える保護者 80%						
		全校で二小のやくそくを守り、挨拶ができる児童を育てる。	「決まりをまもって挨拶している」と答える児童、「自分の子供が挨拶ができている」と答える保護者ともに 90%						

※ 到達度＝達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第三小学校 校長名:佐々木 琢

【経営理念】 子供も大人も共に成長する学校を指針として、地域・保護者と協働して、持続可能な社会の担い手を育成する。そのために、まちの発展や課題について自ら学び考える力を育むとともに、確かな学力、健全で豊かな心と体の育成を目指す。	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和8年12月17日（木） 第2回 令和9年 1月21日（木） 第3回 令和9年 2月18日（木）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（％）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得 主体的に学習する態度の育成	◇授業や家庭学習等において、タブレット端末（ミライシード等）を活用したドリル学習を継続的に実施する。 ◇東京ベシックドリル（算数）の診断テストを実施し、個々の課題に応じた学習を行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
		◇授業や家庭学習等で ICT 機器（タブレット端末や提示用スクリーン等）を効果的に活用する。 ◇授業や様々な活動において、目標設定、選択の機会を設定する。	学校評価アンケートの「ICT 機器等を効果的に活用し、児童が学習活動に主体的に学ぶように努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
豊かな心の育成	規範意識及び社会性の向上 児童一人一人を大切にした教育の推進	◇「きまりを守ること」の意義について理解を深める指導をし、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させ、きまりやルールを当たり前を守る態度を育成する。 ◇全ての教職員が挨拶を実践し、保護者や地域とも連携して、挨拶の習慣の定着をめざす。	学校評価アンケートの「きまりをまもることの意義について理解を深める指導や教職員が率先して挨拶するなど、挨拶する習慣の定着に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
		◇呼名の仕方、掲示物等、児童一人一人を大切にした教育を全校あげて実践する。 ◇ふれあい月間において、いじめについて児童が主体的に考える取組を実施する。 ◇いじめアンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見の徹底を図る。	学校評価アンケートの「児童一人一人を大切にした教育活動を実践するとともに、いじめや不登校の未然防止・早期発見に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上 学校保健活動や健康課題の情報発信	◇体力テストにおいて、個々の目標を設定するなど、主体的に活動に取り組むよう工夫する。 ◇丘の上スポーツタイム等の体育的活動の充実を図ると共に、体力向上に向けた授業の改善を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
		◇生活リズムチェック等を通して、児童の健康課題を把握する。 ◇毎月の保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知を行う。	学校評価アンケートの「児童の健康課題の把握に努めるとともに、保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
まちづくり学習の充実	まちづくり学習の推進 地域と共に歩む学校（保護者・地域との連携）	◇子供の声を大切にした学びの展開。 ◇地域や行政と連携した防災教育や環境教育の推進。 ◇地域の商業施設や、農園等と連携を図り、校内から市内へと活動の幅を広げる。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		◇学校運営協議会や三中学校区教育推進協議会を中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図る。 ◇地域の人材（学生等）を活用した地域未来塾の充実を図る。	学校評価アンケートの「学校運営協議会などを中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図っている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
学校裁量	情報発信力の強化	◇ホームページ、学校公式 X（旧ツイッター）、校支援アプリや一斉配信メール等を通じて、リアルタイムな情報発信に努める。	学校評価アンケートの「連絡メールやホームページ、学校公式 X 等で教育活動の様子を伝えるなど、積極的な情報発信に努めている。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第八小学校 校長名:井口 洋

【経営理念】 人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校 ～「ABC」(A あたりまえのことを B ばかにしないで C ちゃんとやる)～	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年 7月 9日(木) 第2回 令和8年12月17日(木) 第3回 令和9年 2月25日(木)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに東京都及び本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	◇習熟タイムの内容の充実や放課後学習教室などの取り組みを通し、学習を楽しみ、「学びに向かう力」の向上を図る。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇習熟タイムの時間や基礎計算の技能向上などの時間を活用し、基礎・基本の定着に向けた内容を実施するとともに、実態に応じて発展的内容も取り扱うなどすることで、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	◇互いを認め合う学校全体の雰囲気を教員と児童でつくる。 ◇月1回開催するいじめ防止対策委員会で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇学期に1回、いじめに関する授業を行い、いじめは絶対に許されないことを指導する。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇より一層の「挨拶の励行」を推進する。 ◇日常の学校生活を徳育の実践の場として位置付け、感謝の気持ちを言葉や態度で表現できるようにする。 ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発の柱に豊かな心の育成を図る。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて肯定的評価の割合が7割を上回っている。 ○教員の自己評価において、肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	◇ほけんだよりで児童・保護者へ健康情報の共有を行い、健康・増進についての意識付けを行う。 ◇保健室前の掲示や、発育測定前の保健講話により、児童の健康への興味関心を高める。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJTタ会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にしたい思いを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	◇地域人材を活用した授業を積極的に行うことで、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて肯定的評価の割合が7割を上回っている。						
		◇主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を社会科とも関連させたりしながら、児童の発達段階に応じて新聞やポスターにまとめたり、プレゼンテーションソフトを使って発表したりする。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上。						

※ 到達度＝達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第九小学校 校長名:加藤寛之

【経営理念】 ・子供も大人も笑顔の温かい学校～九小の子供は全教職員で指導する～ ・夢や目標の実現に向けて、粘り強く取り組み、自らの道を切り拓く子供を育てる学校 ・自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校	評価		【学校運営協議会・会長】石橋 修 学校運営協議会（学校評価分） 令和 年 月 日（ ） 令和 年 月 日（ ） 令和 年 月 日（ ）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	・児童の学ぶ意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境や授業展開により、児童の「できた、わかった」を引き出し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。	児童アンケートによる授業に関する肯定的評価が80%以上						
		探究的な学習過程を重視し、課題に対する自分の考えを書くこと、互いの考えや意見を交流し学び合うことの2点に対する方策と時間の確保により思考力・判断力・表現力を育てる。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	・安心・安全で、児童が集団の中で自分のよさと力を発揮し、前向きな意欲をもてる学校生活の実現	いじめ防止に関わる授業、「学校生活アンケート」、都スクールカウンセラー面談、縦割り班活動による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	児童アンケートによる学校生活に対する肯定的評価が80%以上						
		縦割り班活動(清掃、遠足、集会)などの異学年交流を通して、役割や責任をもち、集団に貢献することで自己有用感を育む場を作る。また、他者に感謝する心を育てる。	児童アンケートによる縦割り活動についての肯定的評価が90%以上						
健やかな体の育成	・丈夫な体とたくましい心の育成 ・健康な体を意識させる日常的な指導の充実	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、体育の時間は児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価が80%以上						
		休み時間の全校外遊びの奨励、体力テストの前後に行う取組、なわとび週間、持久走週間の取組、体育委員会による休み時間の体育倉庫内にある用具の貸し出し等を実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和7年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	・生活科・総合的な学習の時間をとおして、自ら課題を見付け、協働的に解決していく学習を進める。	各学年において、地域を知り、地域を大切にする課題について考え、主体的に協働的に解決に取り組む探究的な学習を実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		全ての学年で、地域の人材・施設・環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を継続的に実施する。	教職員による取組評価が90%以上						
学校裁量	・地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	情報提供手段として保護者メールの発出、学校X(旧 Twitter)の週3回以上の更新、全学級による学級だよりの発行、月に3回以上のHP更新を行う。	保護者アンケートによる肯定的評価が80%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第十学校 校長名:今井 一馬

【経営理念】 「午前5時間・40分授業で『自立×探究』を目指す学校」 ア 「自立×探究」のサイクルにより、目標を達成する喜びを味わう。・児童の探究的な学習を充実させ、集中して考える力を養う。 イ 自分事のように相手の気持ちを考え、自分も他者も大切にする。・子供同士が互いの差異やよさを確認し、それらを受け入れ尊重し合う。 ウ 食や健康に関する理解を深め、健やかな体をつくる活動にすすんで参加する。・日常的、季節的に取り組む活動を設定し、体力向上の習慣を確立する。	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和8年10月 8日（木） 第2回 令和9年 1月 7日（木） 第3回 令和9年 2月 4日（木）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（％）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学びに向かう姿勢を育てる ・個別最適・協働的な学びの推進 ・課題解決的な学習の推進 ・形成的評価の重視 ・基礎基本の定着	学校の授業と個別の時間との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
		ICT機器（デジタル教科書・一人1台端末の活用等）の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合（教員の記録）						
		課題解決的な学習を展開し、形成的評価を行っていく。	課題解決的な学習・形成的評価を実践できた授業の割合（教員の記録）						
		教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合（教員の記録）						
豊かな心の育成	自己肯定感を高める ・道徳授業の充実 ・特別活動の充実 ・豊かな人間性を育む ・体力づくりの推進	「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合（児童評価）						
		縦割り班活動において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班活動で協力できた児童の割合（児童評価）						
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合（児童評価）						
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童（解消済み含む）の割合（いじめアンケート）						
健やかな体の育成		体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	「中休みなどの外遊びが好きである」児童の割合（児童評価）						
まちづくり学習の充実	開かれた学校をつくる ・地域資源の活用 ・キャリア教育の充実	地域人材や会社、ボランティア等と連携し、地域内外への見聞を広め、まちづくりへの主体者意識を育む。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		高学年を中心に職場体験を実施し、社会貢献と自身のキャリアについて、具体的に考えさせる。	自身のキャリアについて、以前より具体的に考えることができた児童の割合（児童評価）						
学校裁量	保護者との連携を深める ・面談の充実 ・保護者ボランティアの充実	保護者面談で、児童の具体的な成長の様子など、数値だけではなく児童の頑張りを伝えていく。	「児童の学校での様子がよく伝わった」と感じた保護者の割合（保護者評価）						
		学校主導で、新しい形の「保護者ボランティア」を確立する。	保護者ボランティアが関わる教育活動の数（学校の記録）						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 8 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立雷塚小学校 校長名:赤坂 弘樹

【経営理念】 知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。	評価		【学校運営協議会・会長 吉澤 幹郎】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和 年 月 日（ ） 第2回 令和 年 月 日（ ） 第3回 令和 年 月 日（ ）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全ての児童に対する基礎的・基本的学力の定着と児童一人一人の学力向上に努める。	各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業を通して、思考力・判断力を育む。また、学びを生活や学習に活用することで基礎を定着させ、未知の状況にも対応しようとする資質・能力を育成する。	市学力調査にて、(小5)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4)を上回っている。						
		児童の実態を把握し、授業だけでなく、朝学習や家庭学習、学習貯金、放課後学習教室(雷塾)など、継続的な復習の場を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	児童一人一人が、東京ベーシックドリルの回答率を、6月より10%以上上回っている。						
豊かな心の育成	人権教育の推進のため教育活動全体で道徳教育に取り組み、児童の道徳性や自他共に大切にすることを養う。また、特別支援学級と通常級の交流を推進する。	年間を通して、全校道徳の日を設け、内容項目の学びを学校だけでなく、家庭にも呼び掛ける。	年末の児童にアンケートで友達を大切にしている児童は90%以上、自分を大切にする児童は80%以上上回っている。						
		担任間で連携して、特別支援学級と通常級の児童が総合的な学習の時間や行事等で交流を行い、相互理解を深める。	全学年が授業と行事で交流している。						
健やかな体の育成	体育科の授業の充実を図り、体力の向上を目指す。健康な体を育むようにする。	体育科授業年間計画をもとに、各学年が計画的に運動量を確保できるように考え、授業の充実を図る。	学習カードの振り返りや授業中の観察などで、児童が適切に運動し、健康に気を付けて行動している。						
		縄跳び月間や持久走月間、体育集会など体力向上に向けた取組を実施する。	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価C以上の割合が令和6年度との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、保護者・地域と連携・協力し、地域に根ざした探究的な活動の推進	今年度は、「まちづくり学習」の一環で学校と地域とで交流体験や交流学習を行う。	全学年が、交流体験や交流学習をしている。						
		まちづくり学習を校内研究に位置づけ、それぞれの学年で単元の課題を設定し、最終的に発信できるような取組を考え、実施する。	学校自己評価アンケートの「学校はまちづくり学習を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上上回っている。						
学校裁量	「人を大切にする学校」を合い言葉に、主体的に仕事に取り組む人材が育つ「チーム雷塚」の創成	日頃から「人を大切にする学校」をモットーに、教え、教わる協働的な関係を築き、すすんで仕事を実践する。	学校自己評価アンケートにおいて、全体で80%を上回っている。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立小中一貫校村山学園 校長名:飯星 健司

【経営理念】 施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。 (1) 義務教育9年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校 (2) 施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校 (3) 地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年 7月14日(火) 第2回 令和8年11月19日(木) 第3回 令和9年 2月18日(木)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	タブレットPCなどの ICT 機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	タブレットPCの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が80%以上						
		各教科の学習において、問題演習の時間を設定し、繰り返し取り組ませる。未来塾や夏季パワーアップ教室等を生かし、基礎学力の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策(アンケートや情報モラル教室の実施)を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が90%以上						
	特別な支援を要する児童・生徒への対応	SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる。すくすくや4組、サポートルームの充実を図り、不登校を減少させる。	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上 不登校出現率が前年度以下						
健やかな体の育成	児童・生徒の基礎体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
	健康に過ごす意識の向上を図る	食育や薬学等を行い、自己の健康について考える機会をつくる。	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上						
まちづくり学習の充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	市内・保護者・地域へ取組を周知する	学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上						
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たること、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が80%以上						
	基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の50%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第七小学校 校長名:川口 周作

【経営理念】 (1)自ら学びに向かう力を育む学校 (2)豊かな人間性を育む学校 (3)心と体の健康保持増進を育む学校	評価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年 6月23日(火) 第2回 令和8年12月10日(木) 第3回 令和9年 2月18日(木)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	※すすんで(自主・自立) ○自ら学びに向かう力を育む学校 「意欲をもって自ら学ぶ児童の育成」 (学ぶ楽しさ)	・すべての授業で「じっくり考える」「発表し交流する」場面を設定 ・言語活動の充実(小中一貫基準の理由を添えて話す指導の徹底) ・読書活動・作文・俳句等による表現力育成	・学校評価アンケートの「子供は自ら学ぶ意欲が高まってきている」(77%)「子供は授業で学ぶことが楽しい」(73%) 「子供は家庭学習の習慣が身についている」(71%)の項目について、肯定的回答 80%以上 ※()はR7 年度後期の数値						
		・チャレンジタイムやフォローアップタイムで学習習慣(家庭学習含む)の定着指導	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	※みんなのために(共生・貢献) ○豊かな人間性を育む学校「人への優しさと自分への強さをもった児童の育成」 (人とかかわる楽しさ)	・道徳教育の充実と体験的活動の推進 ・異学年交流・地域交流活動の充実 ・あいさつ、学校生活ルールの徹底	・学校評価アンケートの「温かいかわわりと思いやりの心が育っている」の項目について肯定的回答 80%以上						
		・いじめ未然防止・早期発見の組織的対応(いじめ対策委員会月1回実施) ・いじめ重大事案ゼロの継続 ・情報モラル教育の推進	・「学校はふれあい月間や生活指導などで、いじめの問題について取り組んでいる」の項目について肯定的な回答を 60%以上。(R7 52%)						
健やかな体の育成	※たくましく(健康・大志) ○心と体の健康保持増進を育む学校 「心身ともに健康で最後までやり抜く児童の育成」 (元気に育つ楽しさ)	・全学年で、食育・生活習慣などの「健康」に対する意識を高めるための保健学習の工夫と改善を行う。 ・SC、SSW、養護教諭と連携した心のケアを行う。	・学校評価アンケートの「子供は食育・健康教育で学んだことを生かして生活している」(82%)「子供は健康を意識した生活習慣が身についてきている」(76%)の項目について、肯定的な回答を 85%以上。※()はR7 年度後期の数値						
		・全学年において体育授業の工夫と改善を行う。 ・運動の楽しさを味わうための体育的活動(元氣タイム)の学期1回の実施	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	「地域と連携し、課題解決に主体的に取り組む児童の育成」	・地域人材・地域資源の活用 ・「まちづくり学習」の学習状況や取組について、保護者に情報発信する。	・学校評価アンケートのまちづくり学習について「学習を推進・情報発信」しているの項目について、肯定的な回答を 85%以上。(R7 83%)						
		・学年末の振り返りと取組報告の実施 ・生活科や総合的な学習の時間を核とした探究学習	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	施設隣接型小中一貫校として、児童生徒が自主・自立できる教育活動を充実させる。	・学園会議(6回)の実施 ・学園としての組織的な情報共有 ・学習指導の系統性の確認 ・10周年行事に向けての準備	大南学園の評価アンケート「大南学園の教育活動の情報発信を行っている」の項目について、肯定的な回答を60%以上。(新設)						

※ 到達度＝達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第四中学校 校長名:福泉 宏介

【経営理念】 小中連携を通して「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る。 ○ 生徒の生命を第一に考え、生徒にとって心身ともに安全で安心な学習環境を整える。 ○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習意欲の向上、探究的な学びを目指す。 ○ 自他を大切にすることをもち、協働により互いを尊重しながら正義の通る集団を育てる	評 価		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和8年 6月23日（火） 第2回 令和8年12月10日（木） 第3回 令和9年 2月18日（木）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（％）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	○ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ○ 学習の習熟が不足する生徒に、放課後や長期休業日を利用して補充的な学習を実施する他、日常の小テストや自学ノートを活用して基礎学力を高める。	各教科等の授業において、ねらいを明示して学習に見通しを持たせ、終了時に振り返りを行うこと、ICT の有効活用を図ること、協働的な学びの場を授業内に設定することにより、主体的に学ぶ態度の育成と学んだ内容の定着を図る。	学校評価アンケート（生徒・保護者）の「学校は生徒に分かりやすい授業を行い、生徒の基礎・基本の定着に力を尽くしている。」の項目について、80%以上の肯定的な回答を目指す。						
		自主学习ノートの取組の徹底や日常の小テスト等の実施により、基礎・基本の徹底とその活用による思考力・判断力・表現力を養う。学習補充教室や地域未来塾の活用で学力の底上げを図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	○ 自他を大切にすることを養い、いじめを許さない指導を徹底するとともに、思いやりの心を育て、偏見や差別をなくするために人権教育・道徳教育を推進する。 ○ いじめ・嫌がらせ等の問題行動や不登校の未然防止に組織的に取り組み、正義の通る集団に育てていく。	教員がローテーションにより道徳授業を行うことで、生徒に多様な事例や価値観を示しながら、教科横断的・相乗的な指導を行い、生徒の道徳的心情を耕し、判断力と実践意欲を育てる。	学校評価アンケート（生徒、保護者）において、「道徳の授業で心の成長を感じることがある（促している）。」の項目で80%以上の肯定的な回答を目指す。						
		定期的なアンケートの結果を分析・活用し、全教員で共通理解を図りながら一人一人を大切にしている生徒指導の徹底を図る。必要に応じて外部機関とも連携を取りながら、個に応じた対応の充実を図り安全・安心な学校生活を充実させる。	学校評価アンケートの「担任やスクールカウンセラーは、一人一人を大切にしている指導を行っている。」の項目で、80%以上の肯定的な回答を目指す。						
健やかな体の育成	○ 生徒の安心・安全を第一に考え、健康・防災・防犯の安全な学校生活のための共通理解を図り、組織的に対応する。健康的な生活を送るための規則正しい生活や食生活の充実について、全教員で指導する。 ○ 保健体育科の授業や体育的行事をはじめ、様々な取組から生徒の体力向上を図る。	行事や委員会活動、食育等を通して全教職員の共通理解の下で取組を推進し、生徒の健康・安全の意識を高めるとともに、安全・安心な中学校生活を送ることができる環境整備に努める。	学校評価アンケートの「身体の健康と安全について注意して生活している」「生徒の安全・健康面への対応をしっかりしている」の項目について80%以上の肯定的な回答を目指す。						
		保健体育科の授業における指導をはじめ、運動部活動、運動会の自主的な取組やランニング・ウォーキングイベント等の実施により、生徒の体力向上の意欲を高める。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、それを柱に各教科等の指導と関連を図りながら指導の充実を図る。また、探究的・体験的な学習活動を保護者、地域と連携して進め、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度とそのための資質・能力を育てる。	総合的な学習の時間に「自分の生き方を発見する」を全学年テーマとして設定し、職業理解、体験的課題解決、伝統・文化理解や教科横断的な学習を通して、地域の一員として現代的な諸課題に対応する資質・能力を育てる。	学校評価アンケートの「職業調べ、進路学習等を通して将来の生き方や進路について考えるようになった。」の項目について、80%以上の肯定的な回答を目指す。						
		学年単位で具体的な課題を設定し、探究的・体験的な学習活動を通して情報の収集・選択・活用、プレゼンテーションやポスターによる発信を行い、主体的に取り組む態度と情報活用能力・発信能力を養う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、70%以上の肯定的な回答を目指す。						
学校裁量	施設隣接型小中一貫校として、児童生徒が自主・自立できる教育活動を充実させる。	① 話し合い活動を通して小中一貫校基準を育む授業の在り方について、小中相互の授業参観等の取組により達成状況を検証し、よりよい指導の実践を行う。 ② 行事やボランティア活動等の連携を通して、自分の考えをもち主体的に行動する生徒を育む。 ③・学園会議（6回）の実施 ・学園としての組織的な情報共有 ・学習指導の系統性の確認 ・10周年行事に向けての準備	① 学校評価アンケート（生徒）において「私は、自分の考えについて理由をそえて述べる事ができている。」の項目について75%以上の肯定的な回答を目指す。 ② 学校評価アンケート（生徒、保護者）の小中連携の項目において80%以上の肯定的評価を目指す。 ③ 大南学園の評価アンケート「大南学園の教育活動の情報発信を行っている」の項目について、肯定的な回答を60%以上。（新設）						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第一中学校 校長名:森元 隆之

【経営理念】 (1) 基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校 (2) 地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校 (3) 道徳的心情や道徳的实践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校	評価		【学校運営協議会・会長】小泉 亨(第43代PTA会長) 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和 年 月 日() 第2回 令和 年 月 日() 第3回 令和 年 月 日()
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	①生徒の基礎学力の定着 ②教師の授業力の向上	①定期考査前の家庭学習週間の学習計画表の作成を通して家庭学習を定着させる。夏休みの学習会や第三学年を対象とした地域未来塾を活用し、学習意欲の向上を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
		②全教員が学習の内容やねらいに応じてICTを活用する。小中の効果的な接続を図る。学年間で授業参観を学期に1回以上行い、意見交流を行う。	学校評価の「授業の分かりやすさ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を80%以上						
豊かな心の育成	①いじめの撲滅 ②生徒の規範意識の醸成	①「いじめ」をテーマにした道徳の授業を年1回以上行い、交流することで考えを深める。『人権教育プログラム』を活用した授業を実施する。	学校評価の「学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
		②キャリア教育(進路学習)の中で礼儀作法について学ぶ場を設定する。校区の小学校と連携したあいさつ運動を学期ごとに実施する。	学校評価の「挨拶や自治的活動、生き方」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
健やかな体の育成	生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実	珍しいスポーツ(ラート等)を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。2種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業を実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が前年度調査との比較で向上している。学校評価の「運動やスポーツ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を70%以上						
まちづくり学習の充実	①総合的な学習の時間の充実 ②地域への愛郷心がある生徒の育成	①学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」(1年生)「村山から外へ」(2年生)「未来へ向かって」(3年生)を関連させた授業を実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えた、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		②教科の学習や行事等において地域人材を活用した活動を実施する。資源回収やさくら祭りなど地域行事やボランティア活動への参加を促す。	学校評価の「地元への愛着」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上						
学校裁量	開かれた学校の推進	学校ホームページやX(旧Twitter)、校支援メール等を活用した情報配信の強化。	月に1回以上配信する。学校評価で保護者による各項目の「分からない」を20%以下						

※ 到達度= 達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第三中学校 校長名:井内 潔

【経営理念】 ① 生徒一人一人を大切にする ② 生徒の良さ、可能性を伸ばす ③ 教師の持ち味を生かし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める	評価		【学校運営協議会・会長 鎌田 伸一】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和8年 6月13日（土） 第2回 令和8年12月11日（金） 第3回 令和9年 2月12日（金）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	おおむね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る 【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る 【中期】読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 ・補充的学習（地域未来塾等）の実施。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
		・家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・タブレット端末等で学習環境を整える。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
		・朝学活前に朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 ・社会科を中心にNIEを実施する。	年間読書の冊数を平均3冊以上 新聞投稿者が前年度（20名）以上						
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組 【中期】特別な支援を要する生徒への対応 【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・年 3 回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施。 ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。	生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが 90%以上						
		・SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる ・サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる。	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が 80%以上 不登校出現率が前年度以下						
		・市の礼儀読本の活用やあいさつ運動等を行い、礼儀やマナーを身に付けさせる。	学校評価アンケートで肯定的な回答が 80%以上						
健やかな体の育成	【中期】基礎体力の向上を図る 【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピック（年5回以上）の実施。 ・市の駅伝大会等への参加。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和7年度調査との比較で向上している。						
		・「弁当の日」や「食育の日」、「マナー講座」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介。	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が 80%以上						
まちづくり学習の充実	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。 【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。（1年:川越体験学習、2年:東京体験学習、3年:修学旅行等） ・長期休業日を生かし、全学年でCO ₂ 削減の取組を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上						
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進 【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・校区合同研修会を7月に開催し、3学期にまちづくり交流会と協議会を実施。 ・中学校授業体験やキャリア教育交流を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が 90%以上						
		・各種検定やコンクール等に自主的に取り組ませ、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の 50%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

※ 到達度＝達成値／目標値

令和8年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名:武蔵村山市立第五中学校 校長名:大野 博史

【経営理念】 生命尊重や思いやりの心を大切にし、仲間とともに学び、成長することができる学校 (1) 生徒一人一人が学力と体力の向上に主体的に取り組み、豊かな個性と能力の伸長を図る。 (2) 仲間とのよりよい人間関係や集団生活を大切にし、豊かな心と社会性を育む。 (3) 地域を知り、地域に貢献する活動を通して地域や社会の一員として生きていく自覚を高める。	評価		【学校運営協議会・会長】高橋 圭子 学校運営協議会(学校評価分) 第1回 令和8年 6月 4日(木) 第2回 令和8年11月 5日(木) 第3回 令和9年 2月18日(木)
	A	十分に達成している。(80%以上)	
	B	おおむね達成している。(60%以上)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	

項目	計画・取組			自己評価(令和 年 月 日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る。	各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。また、「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。	生徒アンケートにおいて、家庭学習に日常的に取り組んでいる生徒が60%を上回っている。						
		地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポーターを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる。	教師が率先して挨拶をしていくとともに、全校朝礼等で挨拶の大切さについて講話を行い、規律と温かさのある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて、誰に対しても自ら進んであいさつをしている生徒が80を上回っている。						
		ふれあい月間を活用し、いじめに関する授業やアンケート、教育相談等を充実させ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を全校体制で推進する。	教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%を上回っている。						
健やかな体の育成	基本的生活習慣を見直し、高齢者、障がい者理解を深め、心身ともに健やかな生徒を育てる。	パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流をとおして、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。	体験活動や交流活動を年間 1 回以上行う。						
		基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取組を通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	地域を知り、地域を大切にする心を育て、地域とともに生きていることを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。	地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催し、地域を知り、地域を大切にする心を育て、地域社会に貢献する生徒を育成する。	生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという肯定的な回答が 75%を上回っている。						
		KKM(高齢者が暮らしやすい武蔵村山市)、MMM(魅力ある武蔵村山市)の2つのプロジェクトにおいて、市の現状と課題について学習し、発表活動等を通じてより良い武蔵村山を創るためのアイデアを提案させる。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答が70%を上回っている。						
学校裁量	自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。	特別の教科 道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に 1 回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。	生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたと答える生徒が75%を上回っている。						

※ 到達度＝達成値／目標値

～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～
第 4 9 回武蔵村山市歩け歩け大会の開催結果について

- 1 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 2 主 管 武蔵村山市スポーツ推進委員協議会
- 3 協 力 一般社団法人武蔵村山市体育協会
武蔵村山市地区スポーツ協力員連絡会
- 4 実 施 日 令和 8 年 5 月 1 7 日（日）午前 9 時～9 時 3 0 分受付・順次スタート
- 5 コース及び距離
野山北公園運動場（スタート）→出会いの広場→六地藏→猿久保→六道山→
猿久保→六地藏→出会いの広場→野山北公園運動場（ゴール） 約 6. 5 k m

- 6 参加状況 計 1 5 0 人
(内訳)

年 齢 別	人 数 (人)
12歳以下	1 8
13～15歳	1 0
16～19歳	1
20～29歳	7
30～39歳	3
40～49歳	2 1
50～59歳	2 0
60～69歳	1 8
70歳以上	5 0
年齢不詳	2

性 別	人 数 (人)
男 性	6 8
女 性	8 2

居 住 別	人 数 (人)
在 住	1 4 0
在 勤	6
在 学	4

※最高齢 8 8 歳
最年少 4 歳

- 7 完 歩 者 1 5 0 人（最終ゴール時間：午前 1 1 時 1 5 分）
- 8 け が 人 なし
- 9 協 力 者

スポーツ推進委員	1 1 人
地区スポーツ協力員	1 6 人
体 育 協 会	2 人
合 計	2 9 人

令和 8 年 6 月 5 日
教 育 長 決 定

野山北公園プールの休止について

野山北公園プールについては、安定的な施設運営が困難であることから、本年度は休止することとする。